

# 稲作だより

浸・冠水後の対応編

令和6年7月30日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部  
(最上総合支庁農業技術普及課) ☎0233-29-1333

## 被害を最小限にとどめるために

### 用水を確保

水稻は、これから出穂期を迎え、特に水が必要な時期に入ります。用水路の土砂は、可能な限り除去し、用水を確保しましょう。また、水口や畦畔の崩落が軽微であれば、土のう等で崩落の拡大を防ぎましょう。

ただし、無理な作業は行わず、必要に応じて関係機関に相談してください。

### 作溝で給排水を可能に

出穂期～穂揃期は可能な限り水を切らさないような管理が必要です。泥が流入・堆積した圃場では、**排水後に作溝を切り**、雨水を圃場内に均一に溜めやすくし、田面の過乾燥を防ぎます。

また、堆積した泥には窒素成分が含まれることが多いので、**生育の回復を図るための追肥は避けましょう**。

### 計画的に病虫害防除

浸・冠水すると、稲体が消耗し、病虫害に対する抵抗力が低下しやすいので、計画的に防除しましょう。特に、いもち病や紋枯病の発生に気をつけましょう。

### 被害圃場は別に刈取り・乾燥調製

浸・冠水した圃場では、圃場内に入れる状態になったら、流木やゴミ等をコンバインで噛み込まないように、できる限り除去します。また、**被害の無かった圃場と区別して刈取り・乾燥調製を行い、玄米粗タンパク質含有率が出荷基準等を超過していないか必ず確認し、良食味米を出荷しましょう**。

収穫機械や乾燥調製設備が浸水被害を受け、復旧が間に合わないことが想定される場合は、適期作業ができるよう地域で話し合い、体制整備をしましょう。